

町田市長
石阪 丈一 様

2022年度

町田市環境マネジメントシステム

外部評価報告書

(評価対象年度：2021年度)

2022年12月28日

町田市環境マネジメントシステム
外部評価委員会委員長 松波 淳也

はじめに

町田市では、市職員が率先して地球温暖化の防止に取り組むため、「町田市第4次環境配慮行動計画（地球温暖化対策実行計画「事務事業編」）」を策定し、削減目標を掲げ、市役所自らの事務事業に伴って排出される温室効果ガスの削減に職員全員で取り組んでいます。さらに、廃棄物の削減や省資源等の環境負荷低減の取組も行っています。これらの取組を推進する仕組みとして「町田市環境マネジメントシステム」を構築し、運用しています。

町田市環境マネジメントシステムでは、運用状況と実績を客観的に評価することを目的として、市民・事業者・学識経験者で構成された「町田市環境マネジメントシステム外部評価委員会」を設置しています。

本報告書は、2022年度に実施された外部評価結果をまとめたものです。

目次

1. 外部評価の方法等	4
(1) 外部評価委員会の構成	4
(2) 評価対象	4
(3) 評価内容	4
(4) 実施方法	5
(5) 外部評価委員会に提示された文書及び資料等	5
2. 外部評価委員会の実施日程及び実施内容	6
3. 外部評価結果	7
(1) 温室効果ガス排出量・エネルギー使用量	8
(2) 資源（廃棄物）	9
(3) 資源（紙）	10
(4) グリーン購入達成率	11
(5) エコオフィス活動（職員共通）	12
(6) エコオフィス活動（施設担当部署）	13
(7) -1 運用状況（環境法令の遵守）	14
(7) -2 運用状況（研修の実施、内部環境監査、情報公開）	15
4. おわりに（まとめ）	16

1. 外部評価の方法等

2022年度 外部評価委員会

2022年度の外部評価委員会は、9月から11月にかけて計2回開催し、外部評価委員による環境マネジメントシステム外部評価を実施しました。

(1) 外部評価委員会の構成

- ① 構成：市民3名、事業者3名、学識経験者3名の計9名の委員
- ② 任期：2年（現委員の任期は2022年9月から2024年3月）

(2) 評価対象

- ① 組織：全庁全課（市立の小中学校を含む）
- ② 活動：「町田市第4次環境配慮行動計画」に基づくエコオフィス活動

(3) 評価内容

2021年度の活動に対する評価

① 環境パフォーマンス

温室効果ガス排出量、エネルギー使用量、廃棄物排出量等のパフォーマンス

② 環境活動状況

各職場におけるエコオフィス活動及び運用状況（研修の実施、環境法令の遵守状況、情報公開）

評価項目		評価基準	
評価項目	評価内容	評価点	評価内容
温室効果ガス排出量 エネルギー使用量	・目標達成状況 ・経年変化状況	5	評価できる
資源（廃棄物） 資源（紙）	・経年変化状況	4	概ね評価できる
グリーン購入達成率	・経年変化状況	3	普通
エコオフィス活動（職員共通）	・各職場の活動状況	2	あまり評価できない
エコオフィス活動（施設担当部署）	・各職場の活動状況	1	評価できない
運用状況（研修の実施、環境法令の遵守、内部環境監査、情報公開）	・実施状況 ・自己点検結果 ・是正対応状況 ・監査結果		

1. 外部評価の方法等（つづき）

(4) 実施方法

項目	具体的内容
① 基礎情報の提示と説明 （第1回外部評価委員会）	事務局が、環境マネジメントシステムの運用状況及び成果を示す（5）の文書及び資料を第1回外部評価委員会（集合・リモート形式の併用）にて外部評価委員に提示し、内容を説明する。
② 質問・意見の収集	外部評価委員は、事務局より提示された文書及び資料を精査し、評価に向けた質問や意見を事務局に提出する。
③ 評価方法の説明 （第2回外部評価委員会）	事務局は、外部評価委員からの質問・意見を取りまとめ、第2回外部評価委員会（集合・リモート形式の併用）にて提示し、評価方法を説明する。
④ 評価の実施	外部評価委員は、事務局より提示された文書及び資料を基に（3）の評価項目ごとに評価基準にしたがって評価点と評価意見を付し、事務局に提出する。
⑤ 外部評価報告書のとりまとめ	事務局は、評価結果を取りまとめる。 外部評価委員会は、全ての評価結果を精査し、外部評価報告書として取りまとめる。

(5) 外部評価委員会に提示された文書及び資料等

- ① 町田市環境マネジメントシステム2021年度実績報告書
- ② 2021年度町田市環境マネジメントシステム外部評価報告書
- ③ 町田市環境マネジメントシステム2021年度外部評価委員会指摘事項とその対応状況
- ④ 上記文書及び資料に関連するデータ等

2. 外部評価委員会の実施日程及び実施内容

2022年度の外部評価委員会は、新型コロナウイルス感染症の流行に伴う感染防止対策のため、集合形式及びリモート形式の併用による開催としました。実施時期及び内容は下表のとおりです。

区分	日時	内容
第1回評価委員会 (集合・Web開催)	9月30日	(1) 2022年度外部評価の進行について (2) 環境マネジメントシステム2021年度実績について
一次評価、質問・意見 収集	9月30日 ～ 10月14日	各委員からの一次評価及び質問・意見を収集
第2回評価委員会 (集合・Web開催)	11月10日	(1) 2021年度実績の評価について (第1回委員会での質問に対する回答及び一次評価について) (2) 町田市第5次環境配慮行動計画について
最終評価	11月10日 ～ 11月21日	各委員による評価の実施
外部評価報告書 とりまとめ	11月11日 ～ 12月20日	評価結果と併せ、市長への報告

3. 外部評価結果

外部評価委員による各評価項目ごとの評価点（平均点）は次のとおりです。

エコオフィス活動（職員共通）が3.8点、エコオフィス活動（施設担当部署）が4.0点と高めの評価となり、資源（廃棄物）が2.1点、グリーン購入達成率と運用状況が2.8点と低めの評価となりました。

評価項目	評価内容	評価点（平均点）
温室効果ガス排出量 エネルギー使用量	・ 目標達成状況 ・ 経年変化状況	3.2
資源（廃棄物）	・ 経年変化状況	2.1
資源（紙）	・ 経年変化状況	3.3
グリーン購入達成率	・ 経年変化状況	2.8
エコオフィス活動（職員共通）	・ 各職場の活動状況	3.8
エコオフィス活動（施設担当部署）	・ 各職場の活動状況	4.0
運用状況（研修の実施、環境法令の遵守、内部環境監査、情報公開）	・ 自己点検結果 ・ 是正対応状況	2.8

評価基準

評価点	5	4	3	2	1
評価内容	評価できる	概ね 評価できる	普通	あまり 評価できない	評価できない

3. 外部評価結果

(1) 温室効果ガス排出量・エネルギー使用量

評価項目ごとの評価点（平均点）及び主な評価意見は次のとおりです。

評価項目	評価点 (平均点)	主な評価意見
温室効果ガス 排出量・エネ ルギー使用量	3.2	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 温室効果ガス排出量が、前年度比7.2%もの増加は、コロナ禍でやむを得ない事情があったとはいえ、評価を下げる要因となる。 ◆ 2021年度は特殊な事情により前年度比で増加したとはいえ、2016年度から2021年度までの平均削減率をみても2015年度比マイナス6%には達していない。結果的に2021年度までに2015年度比で6%削減という目標値は未達となってしまっている。どこに問題があったのか（目標値設定、取組み内容、不可抗力的な要素など）を分析し、次期計画につなげていく必要がある。 ◆ 温室効果ガスに関して、前年度と比べて増えてしまっているのはやむを得ないと思うが、2019年度と比較しても微増している。今後、排出削減をさらに進めていかなければならないことを考慮すると、削減に向けた取組みを強化する必要があると考えられる。 ◆ 前年度比では温室効果ガス排出量は増加しているが、町田市バイオエネルギーセンターの試運転に伴う電気使用量増（150%）、都市ガス使用量増（700%）、が主な要因であり、やむを得ないものとする。2月の都市ガス等使用量の増加についても町田バイオエネルギーセンターの不燃・粗大ごみピットで発生した火災による焼却炉の一時停止や緊急整備による停止と起動が原因ということで理解できた。削減目標としている2015年度比3.6%削減は評価基準に照らし合わせると「4」に該当しており、昨年度比の経年変化では増加している主な理由がコロナの影響であったことを踏まえて、総合的に「4」と評価した。 ◆ 当該項目は排出係数の変動や感染症など外的要因で達成の進捗がわかりにくい、重要な課題であり常に目標達成する意欲を持って対処していただきたい。 ◆ 15年度比6%の目標が達成できていないことに加え、昨年より増加していることから、評価できない状況。コロナの理由として一定の理解はできるものの、期の間でモニターして制御努力した形跡があまり見られず、もう少し努力できることはあったと考える。

3. 外部評価結果

(2) 資源（廃棄物）

評価項目	評価点 (平均点)	主な評価意見
資源（廃棄物）	2.1	<ul style="list-style-type: none">◆ 廃棄物排出量が2015年度比で19%もの増加、前年度比8.8%もの増加は、コロナ禍でやむを得ない事情があったとはいえ、評価を下げる要因となる。◆ 2015年度以降、再利用率が同年度を下回る状況が続いており、50%台前半で推移している。再利用率が向上しない理由を明らかにするために、廃棄物の組成分析、特に「その他（一般廃棄物）」と「その他（産業廃棄物）」の詳細を明らかにしたうえで、さらなる再利用可能／不可能なものを見極めとそれを踏まえた対応検討が必要であると考えている。◆ 再利用率については、前年より改善が見られるものの、排出量は増加傾向にある。実績報告書では、主な増加要因2つ（市民病院、落ち葉雑草）について説明があるが、それを除いても増えていることを考えると、全体として削減に向けた取り組みを強化する余地があるように見受けられる。◆ 公園等における「落ち葉・雑草」の排出量の増加に関しては、再利用率が高く資源として有効利用されている状況も理解できた。今後も廃棄物の発生量の抑制のみならず、再利用率の向上による実質排出量の抑制に向けた取り組みが重要になると考える。2021年度の廃棄物発生量は2015年度比で19%増、再利用率の向上により実質排出量の抑制に寄与しており、実質処分量の経年変化は微増であるため、評価は「2」とした。◆ 市民病院の処分量増加は理解できるが、目標値を大幅に上回っている。「落ち葉・雑草」はバイオマス発電などで再利用できたらと思う。◆ 感染症は一定の頻度で出現すると考えられる。感染症廃棄物の再資源化も今後の課題となる。◆ 枝の剪定を求める市民の声に応えたことは評価できるが、数値は悪化している。排出量の削減に向けて、啓発のみならず、何かコントロールができる方策が必要では。◆ 家庭ごみと違って細かい分別などが必要な中で、抜き打ちチェックなどの努力をしている点は評価できる。

3. 外部評価結果

(3) 資源（紙）

評価項目	評価点 (平均点)	主な評価意見
資源（紙）	3.3	<ul style="list-style-type: none">◆ コロナや国勢調査といった特殊要因を除くと、前年度と比較して着実に削減が進んでいるとは判断できない状況にあると思われる。学校のみならず、市役所全体としてのDX推進とそれとともなう一つの効果としての紙の削減といった成果がいまだ見えてきておらず、今後を期待したい。◆ 主な減少要因は、小中学校において新型コロナウイルス感染症拡大に伴うプリント配布枚数の増加が平常時に戻ったこと、国勢調査が行われなかったことであり、いずれも特例的な事象が平常時に戻ったためとのことで理解できる。2021年度に学校におけるタブレット端末の配備と高速通信環境の整備が完了したことを踏まえて、今後は平時における紙資源の一層の削減に繋げていっていただきたい。◆ 目標は達成しているものの、昨今デジタル社会の進捗に伴い、より一層の削減目標を作成し、資源の削減に努めていただきたい。◆ 1人一台のタブレット配備が完了したということなので、製品予定寿命と価格から紙や製造に必要なエネルギー相当量などと比較する評価も必要である。総合的に省資源かどうかは客観的なデータが必要。勿論デジタル化は別な効果もあり単純に効果を否定するものではない。◆ システムが変わった後の同じ条件下で比較できる範囲の3年はほぼ変化が見られない。国勢調査の事情は分かるが、構造的なメスが感じられない。職員の努力に加え、市の制度まで巻き込んで各課横断でタスクチームを作り、案だしを行って、仕組みから構造的に紙の使用量を落としていただきたい。◆ 資源の中でも一番努力をされているであろう紙を削減できていて、すばらしい。タブレットの活用がもっと進んで、さらに紙の削減につながれば良いと思う。

3. 外部評価結果

(4) グリーン購入達成率

評価項目	評価点 (平均点)	主な評価意見
グリーン購入 達成率	2.8	<ul style="list-style-type: none">◆ 小中学校とそれ以外とを比較すると小中学校における達成率が低い傾向は従来からみられるところである。小中学校のなかでも達成率に違いがあることから、best practice もしくはbetter practiceの水平展開が求められる。また、非適合品の購入がやむを得ない場合については、達成率の算定から当該品目を除外するといったことも検討して良いと思われる。◆ 「非適合品購入の理由」の中で、「意識しないで購入した」という理由が挙げられている。これは逆に言えば、「意図しないで購入した」ものが、たまたま適合品であったという場合も生じている可能性がある。もしそうであるとすると、それを「グリーン購入」として良いのか。上述の内容にも関連するが、「適合品の購入比率」以外も含めて把握する必要があるのではないか。◆ 非適合理由の「その他」（16.2%）について、「意識しないで購入した」という理由でグリーン購入に至らなかったような記載がある。購買を担当する方の意識高揚に繋がる仕組みを検討し、属人的な要因を最小化するための取り組みに注力していくべきだと考える。過去2年間における経年変化を加味すると、徐々にグリーン購入率は向上しているが、評価基準に基づき「2」とした。◆ 80%は良くやっている。一方で環境負荷低減というあいまいな目標を明確（例えば気候変動問題への対応）にしたらいかがか。また、購入の絶対量を把握し、不要なものを購入しない、長く使うといった努力も必要かと思う。◆ 達成率が向上している点は評価できる。非適合品購入理由が価格優先ならば予算増が可能か、品質優先ならば購買ルート、他製品の探索などを検討すべきと考えられる。◆ 頑張っている痕跡はあるが、数値での頑張りが見えてこない。何をしたらゴールなのかを決め、提示する必要がある。また、問題把握のみで終了するのではなく、課題分析、対応計画に落とすことが望まれる。

3. 外部評価結果

(5) エコオフィス活動（職員共通）

評価項目	評価点 (平均点)	主な評価意見
エコオフィス活動（職員共通）	3.8	<ul style="list-style-type: none">◆ これまでと同様にきめ細やかな取組みが継続して実施されていることが確認できる。空調・照明の適正使用や分別の徹底が高得点となっていることは評価できる。一方で、くるくるコーナーの活用などを通じた不用品の有効利用が比較的低い点数であり、仕組みの問題なのか、不用品の種類や質の問題なのか等を検証し、さらなる有効利用につながるような工夫を模索されたい。◆ 各職場の環境推進員がエコオフィス活動を評価されているが、取り組みを通じて様々な工夫が見られる等、その意識の高さと評価の平均点を評価基準に照らし合わせて「4」と評価する。今後、さらにエコオフィス活動を定着・推進していくために、相互職場での評価を検討してみてはどうか。◆ 良くやられている。より良くするなら省エネ診断等を行って、さらなるCO2排出量を減らすなど新たな取り組みも検討されたら良いと思う。◆ 概ね良好な活動が継続していると推察できる。デジタル化のメリットは標準や規約の変更、更新により省資源効果が大きく改善する点にある。業務や取り扱いデータの標準化を進めていただきたい。◆ 改善の余地がほぼない中、よく頑張っていると思う。民間でも行っている取り組みとして、強化面ではクロスチェックの導入や抜き打ちでの環境課による見回り、是正指摘に対しては各部部長チェックによる是正確認などがある。照明や空調については、廊下や事務室での事故防止や仕事が必要な事務員の健康被害が守られているか、労働安全衛生分野の管理をする部署によるオフィス環境基準に対する並行確認も忘れず実施が必要だと考える。

3. 外部評価結果

(6) エコオフィス活動（施設担当部署）

評価項目	評価点 (平均点)	主な評価意見
エコオフィス活動(施設担当部署)	4.0	<ul style="list-style-type: none">◆ これまでと同様に、全体としては継続的に熱心な取組がなされていると評価できる。ただ、「昼休み時の照明消灯の実施」については5割程度にとどまっている。消灯していなかった残りの5割は、消灯したのでは業務に支障が出るような部署・箇所であったのかを精査したうえで、業務上、消灯が困難なところについては除外して評価するといったことも検討して良いのではないか。◆ 取り組み全般において高い実施率となっており、「4」と評価した。昼休み時の照明消灯の実施に関しては継続的な啓蒙活動が大切だと考える。この際、消灯時に足元が見えにくくなって事故に繋がるリスクもあるため、通路の整理整頓にも注力していくべきだと考える。◆ 達成率は良く、職員の方は良くやっていると思う。一方、CO2排出量を減らすためにどの施策が、効果が高いかを絶対量で評価すると良い。◆ 概ね良好な活動が継続していると推察できる。◆ 改善の余地がほぼない中、よく頑張っていると思う。自助努力だけでなく、既に導入されている自動調節機能のある空調機などように、自動適合される仕組みを導入して省エネを行うことができると良い。

3. 外部評価結果

(7) - 1 運用状況（環境法令の遵守）

評価項目	評価点 (平均点)	主な評価意見
運用状況 (環境法令の 遵守)	2.8	<ul style="list-style-type: none">◆ 行政の立場にある町田市にとって法令遵守は絶対事項である。不適合はゼロでなければならない。速やかな改善策を取るべきである。◆ 不適合が24件と決して少なくない数が確認されており、このことは「環境法令遵守チェックシート」の活用の効果であるとも評価できるものの、法令遵守がなされていない状況、すなわち違法状態が、少なからず存在していることは問題である。早急な改善と未然防止策のより一層の徹底が求められる。◆ 環境法令の遵守に関して、不適合件数が昨年度と同じ24件であった。「チェックシート」の導入によって、そうした状況が把握できるようになったことは良いが、不適合件数を減らすための「仕組み」が効果的なのかどうかを検討し、必要に応じて改善できるような取り組みを進めていくべきである。◆ 行政として環境法令を自ら遵守することは必須だと考える。未是正となっている保管基準の不備（保管場所の困いがない、掲示板の未設置等）に関しては基礎的な内容であり、保管場所の移転も含めて躊躇なく改善を図るべきだと考える。◆ 法令遵守については各委員から指摘があるように、未是正はゼロを基本としていただきたい。◆ コンプライアンスに対する対応に不満がある。「2」というのは総合的にみると厳しい評価だが、市役所が公的機関であり、民間に手本を見せる立場であるにもかかわらずコンプライアンス違反状態にあるということを考えると非常に社会的責任としてよくない状態である。施設の事情などは理解できるが、コンプライアンス案件であることを考えると、せめて全件に対して計画策定は行って結果を示してほしい。ところが、現在でも改善計画を提示できていない項目がある状況は変える必要がある。

3. 外部評価結果

(7)–2 運用状況（研修の実施、内部環境監査、情報公開）

評価項目	評価点 (平均点)	主な評価意見
運用状況 (研修の実施、 内部環境監査、 情報公開)	2.8	<p>研修の実施</p> <ul style="list-style-type: none">◆ 研修の出席率が前年度比で一部低下しているものの、概ね高い水準を維持していることは評価できる。◆ 動画配信による研修を実施する等、コロナ禍であるにも関わらず一定の出席率を保てたことについて評価できる。今後もコロナ禍においても参加しやすい研修の実施や、アンケート結果を踏まえた研修方法等について改善していく必要があると考える。◆ 動画配信を取り入れたことは受講漏れをなくすという意味で、評価の対象となる。ただ、「動画学習もあり」は事実上のeラーニングであるため、目標値は100%だろう。実際、私の所属組織では、休職者・出向者を除くと99～100%という認識である。所属長に義務づけし、場合によっては、会議設定や目の前で受講を求めているかどうか。 <p>内部環境監査</p> <ul style="list-style-type: none">◆ 機能していて改善につながっている、かつ対象を的確に選んでいる。革新的ではないが、当たり前のことをちゃんとフォローしている。 <p>情報公開</p> <ul style="list-style-type: none">◆ 気候変動の問題は、世界の国々や政府で刻々と状況が変わっている。民間企業でもその対応をしている。そういった時々々のトピックを共有することも必要だと思う。◆ 画期的とは言えず、積極性に波もあるが、やるべきことはやっており、当たり前ではあるが、ちゃんと正直にやっているよう。例年通りに行っているので良くも悪くもなし。

4. おわりに（まとめ）

町田市環境マネジメントシステムは、市の全施設・全職員を対象範囲とし、環境配慮行動計画に基づく市の温室効果ガス排出量削減目標達成のための全職員の環境活動を進行管理する仕組みであり、「職員による内部環境監査」「市民等の第三者による外部評価」「取組実績、内部環境監査結果、外部評価結果の開示」等の透明性の高い評価プロセスを取り入れています。本外部評価においては、数値データや点検結果をとりまとめた実績報告書等を精査し、運用状況を確認しました。

特に評価できる点は以下のとおりです。

- ・ **エコオフィス活動（職員共通・施設担当部署）**（実績報告書P13～14、P34～P37参照）
職員の日常的な省エネ・省資源への取組や設備の適正管理が、高い実施率で継続されている点が評価できます。

改善が必要な事項は以下のとおりです。

① 環境パフォーマンス

- ・ **温室効果ガス排出量**（実績報告書P9、P24～P30参照）
2020年度のコロナ禍の影響や、町田市バイオエネルギーセンターの試運転等のやむを得ない事情があったものの、前年度から7.2%増加という数値は2019年度と比較しても微増しており、結果的に2021年度までに2015年度比で6%削減という目標値を達成できませんでした。問題を分析し、次期計画の推進に向けた取り組みの強化が必要です。
- ・ **資源（廃棄物）**（実績報告書P10、P31参照）
廃棄物排出量は2015年度比・前年度比ともに増加し、再利用率は前年度に比べ改善傾向にあるものの、2015年度比では下回っています。廃棄物の排出量の削減や、再利用率の向上を行うためには、廃棄物の組成分析を行い、その結果を踏まえた具体的な対策の検討が必要と考えます。
- ・ **グリーン購入達成率**（実績報告書P12、P33参照）
前年度から達成率が向上している点は評価できます。しかし、非適合品購入の理由に「意識しないで購入した」という理由があり、担当者の意識向上に加え、属人的な要因を最小化することが必要と考えます。また、達成率が低い傾向にある小中学校においては、グリーン購入品の水平展開を行うことで達成率のバラつき防止になると考えます。

② 環境活動状況

- ・ **環境法令の遵守**（実績報告書P17、P38参照）
不適合件数が昨年度と同じ24件でした。行政として環境法令遵守は、絶対事項です。不適合の未是正もゼロが基本です。未是正となっている事項は、基礎的な内容（廃棄物保管に関すること）であるため、躊躇なく改善を図る必要があります。そして、環境法令の不適合に対し、未然防止策の徹底が必要です。